

北海道浮魚ニュース

平成20(2008)年度6号 (通巻 No.259)

2008年 7月3日

北海道立水産試験場

ホームページ: http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

6月末の道南太平洋のスルメイカ分布密度は平均して高かったが、浦河沖では漁獲がなかった。魚体サイズは昨年と比べ小さい。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間: 2008年6月26日～6月30日
- ・調査海域: 道南太平洋(渡島半島沖～日高沖～下北半島沖)
- ・調査船: 金星丸 (151 t。イカ釣機5台、イカ用集魚灯20灯装備)

漁獲調査は4地点(St.1、8、15、16)で実施し、昨年(2007年6月25～29日)の結果と比較しました。

1. 水温分布

各調査点の表層水温は11.1～15.9(昨年15.2～18.2)で昨年に比べ2.3～4.1低い値でした。水深50m層の水温は7.1～11.9(昨年7.7～14.3)で、浦河沖St.15で昨年より0.2高かったほかは、昨年に比べ0.6～2.4低い値でした(図1、2)。海域全体としては、表層・50mともに、昨年よりは低かったものの、平年並みかやや高めの水温となっていました。

2. 分布密度

各漁獲調査点でのCPUE(2連式イカ釣機1台1時

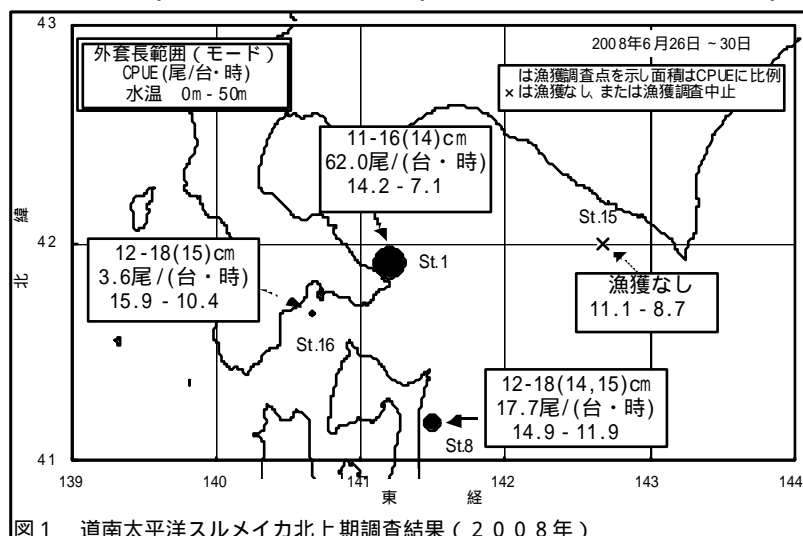


図1 道南太平洋スルメイカ北上期調査結果(2008年)

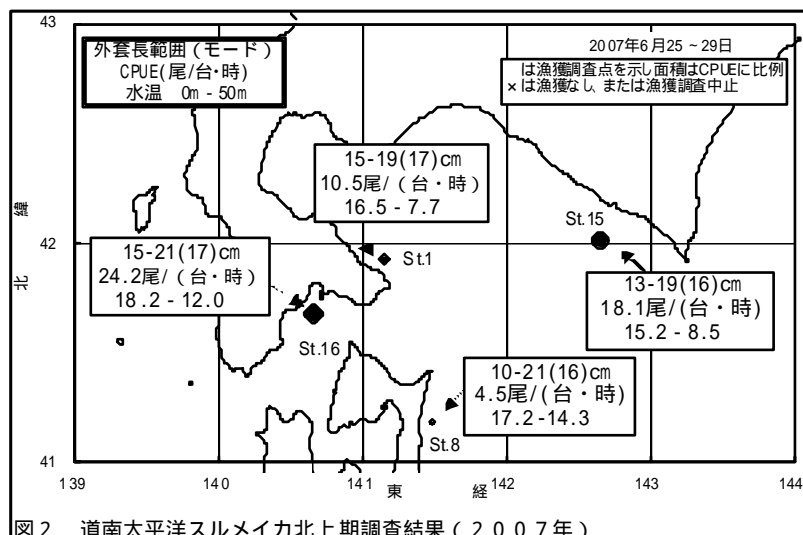


図2 道南太平洋スルメイカ北上期調査結果(2007年)

表1 道南太平洋スルメイカ北上期調査時のCPUEと外套長の経年変化

	2002 6/24-28	2003 6/23-27	2004 6/21-25	2005 6/20-24	2006 6/19-23	2007 6/25-29	2008 6/26-30
St.1(木直沖)CPUE	0.5	2.2	4.3	0.1	0	10.5	62.0
St.8(下北半島東沖)CPUE	2.3	1.3	-	0	0.1	4.5	17.7
St.15(浦河沖)CPUE	10.4	10.2	16.9	0	0	18.1	0
St.16(函館沖)CPUE	4.3	-	-	3.9	6.1	24.2	3.6
平均CPUE(尾/台・時間)	4.4	4.6	10.6	1.0	1.6	14.3	20.8
外套長の範囲(cm)	13-21	10-20	13-21	12-17	12-17	10-21	11-18
外套長モードの範囲(cm)	15-17	14-17	18	14	15	16-17	14-15

間当たりの漁獲尾数は0～62.0(昨年4.5～24.2)でした。平均CPUEは20.8(昨年14.3)で昨を上回り、調査が現在の形になった2002年以降では最も高い値となりました。ただし浦河沖 St.15 では漁獲がなく、函館沖 St.16 でも2002年以降の平均を下回る値でした(図1、図2、表1)。

3. スルメイカの大きさ

調査海域全体でのスルメイカの外套長(胴長)の範囲は11～18cm(昨年10～21cm)、海域全体のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は14cm(昨年17cm)で、昨年に比べ小型でした(図1、図3、表1)。各調査点のモードは14cm～15cmにありました(図1、表1)。

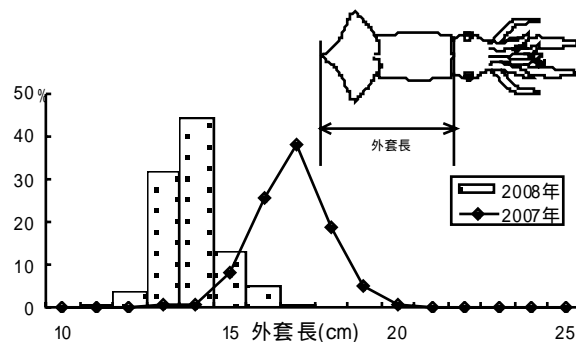


図3 調査海域全体の外套長組成

4. 標識放流

6月26日に木直沖 St.1 で、6月28日に下北半島東沖 St.8 で、合計862尾のスルメイカ標識放流を行いました(図4)。標識のついたイカを発見されましたら函館水産試験場調査研究部までご一報下さい。その際、以下のデータについて、可能な範囲で構いませんのでご連絡願います。

標識の形状と番号(必ず)

再捕日時

再捕場所(分かれば緯度経度)

再捕の方法(釣り、定置網等)

再捕個体の外套長

再捕個体の体重

再捕個体の性別

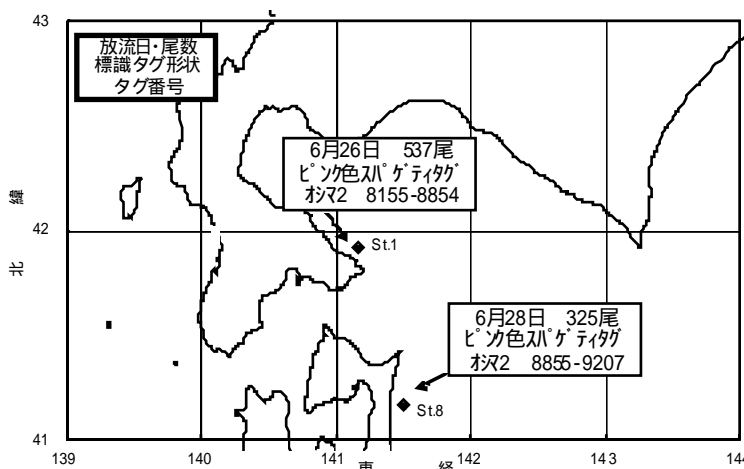


図4 2008年道南太平洋スルメイカ標識放流地点

(文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991)